

須加院川ありがとう

連絡先事務局 〒679-2132 姫路市香寺町須加院470-1
メー ル blue_sky@gaia.eonet.ne.jp
ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~sukain/index.html>

電話とファクス
079-265-3631

須加院川の会
第 068 号
発行日 H22. 2. 28
発行 上月時男
編集 上月勝好

‘10/03～‘10/05 月の予定

	月 日	時 間	集合場所	中止・決行は集合時刻に集合場所で発表
169	3 月 7 日(日)	AM9:00～ ～11:00	・香呂南小前 ・毘沙門天下	・花壇手入れと周辺の草刈および学校横周辺のゴミ拾い ・前回移動済竹笹焼却(※午後から総会のため11時に切上)
170	3 月 7 日(日)	PM13:00～ ～16:30	・いきがい センター	・2010年度総会(会員以外の方の参加も大歓迎です) ・総会終了後：茶話会、ダベリング
171	4 月 3 日(土)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前 ・増田屋橋	・花壇手入れと周辺の草刈および学校横周辺のゴミ拾い ・元しんざか井堰～上流方面の草刈および周辺のゴミ拾い
172	4 月 3 日(土)	PM12:30～	・鍵の谷・池尻	・花見の宴会 ※雨天気味なら須加院公会堂で開催
173	5 月 2 日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前 ・公会堂付近	・花壇手入れと周辺の草刈および学校横周辺のゴミ拾い ・森の元井堰～営農倉庫付近の草刈および周辺のゴミ拾い

つもりちがい

- ① 高いつもりで低いのは教養

② 低いつもりで高いのは気位

③ 深いつもりで浅いのは知識

④ 浅いつもりで深いのは欲

⑤ 厚いつもりで薄いのは人情

⑥ 薄いつもりで厚いのは面の皮

⑦ 強いつもりで弱いのは根性

⑧ 弱いつもりで強いのは我

⑨ 多いつもりで少ないのは分別

⑩ 少ないつもりで多いのは無駄

「つもりちがい」が何かと物議をかもすという。人生をタツブリと生き、経験や知識も豊富な、しかも長と名が付く役職(経験)者ほど陥り易いと聞く。なぜなのだろう。実はその人の周

りから忠告や苦言を言う人が減り、裸の王様になってしまうからと言う。情報過多の時代なればこそ特に他人の声には謙虚に耳を傾けねばカシコイつमりのバカに陥り易い。

ところで美しい川の基本は「きれいな水が流れていること」、「流れが有っても汚水や廃水の有無つまり川魚などが棲んでいるかどうか」がモノサシ、「つもりちがい」で美しい川に誤解が起きないように改めて考えて見たい。

国や県は川に棲む生き物の数や種類が減ったり絶滅した川は異常な川、河川や海洋荒廃の大きな要因とする。特に崩壊した河川の修復工事には自然環境の保全を踏まえた多自然型への修復をするよう定め関係先を指導している。というのも、近年までは諸事情により生態系の保全より

先ず修復を優先して来たことが、予想を超えて環境破壊等を招いたと反省し、河川の有るべき方向を生態系の保全を優先する道へとハンドルを切りました。

つまり人も多様な生態系の一つ、共に生き、棲み分けることが「人類の生き残れる道」としたからです。例えばミツバチが姿を消せば花が実を付けず収穫できない作物が多く出て物価が高騰するとか、ダムにも人に一時は好都合でも中長期では大きな災害を起こし兼ねない物があるなど。ですから生態系の保全を無視し先ず修復との主張、美しい川を目差す人なら大きな「つもりちがい」と言えましょう。

つもりちがいにホテルが乱舞する川は美しい川という誤解。川がゴミだらけでも流れが有り水質がマズマズなら、魚は泳ぎウナギやナマズにカワゲラも棲む。ましてカワニナが棲めばホテルも飛ぶでしょう。しかし川面や流れに触れたり川に親しむ気持は起こらないでしょう。美しい川とはゴミも無く、多くの種類や数の魚が泳ぎ棲む川、ホテルが乱舞し花の咲乱れる川原など、近づきたい・水面をのぞいたり触れたいと人を誘う景観を持つ川と言えましょう。

川の美しい景観を蘇らせたり護ることは、「コッソリと人目を忍んで」川へゴミを捨てたり汚濁水を流したりさせにくくしているつもり、美しい瀬戸内海の保全に貢献しているつもり、身近なところで美しい自然を眺め心が癒されたという人が増えたり喜んで頂いているつもり、そんな積りの夢を見ながら私達は川美化に取り組んでいます。ですがこれが正に「つもりちがい」になっているかも知れませんが……。

ノーポイ運動・ゴミ減量作戦

須加院川の会は一月の活動で丸八年を終え、須加院川や姫路市道須加院線へのポイ捨てゴミゼロに向け二月

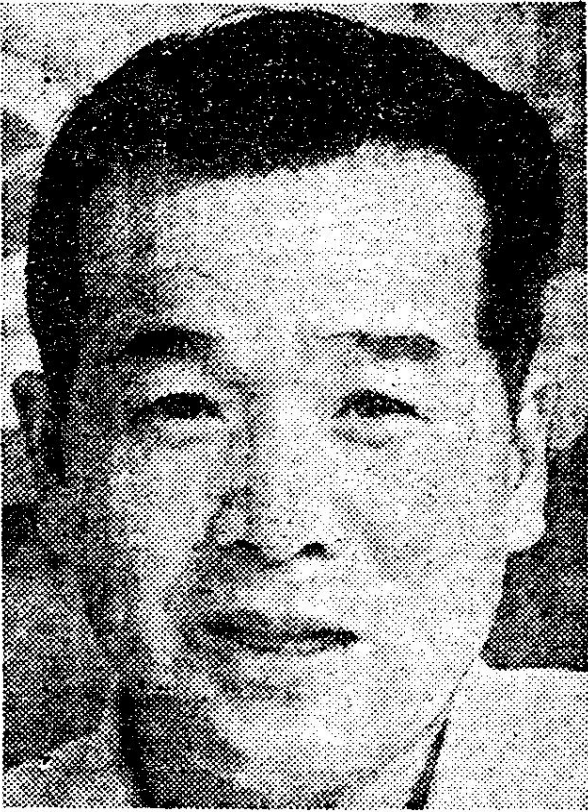
で九年目に入った。下は朝日新聞(昭和 56 年 10 月 8 日)に掲載された記事。故上月繁幸(編集人の実兄)が約30年ほど前、すでにゴミのノーポイ運動に取り組んでいたことを示すものだが、身内自慢に取られるかもと迷ったが記事との

出会いも何かの縁と紹介する事にした。

彼は記事掲載の翌秋、妻子や親を遺し早々と逝った。時は移ったが記事の行間から当時と今の社会状況、派遣やパート労働など未組織労働者への厳しい労働条件や住居も無く仕事に有り付けない就業氷河期が重なり合うように感じられる。それはさて置き、記事には「船場川にアユが泳ぐようになるような環境問題に取り組みたいと個人的に思っています」とある。ところで「須加院川をアユが泳ぐような川にしたい」と願うのは川の会の設立者、上月時男会長の初志、しかし達成できる確率は船場川より困難が予想される。そのわけは、川筋住民がイの一番に「アユの泳ぐ川にしよう」と意思統一できるかどうかは決め手では。日頃の川美化への関心度合い等から見れば確率はかなり低そう。片や船場川は保城から市川の水を豊富に取れ、白国や大野川等の流れも集め世界遺産姫路城下を流れているので、目標への管理の目や手が国・県・市を始め市民も深く関わられるだろう事などで確率が高そうです。

朝日新聞 (S56/10/08 朝刊に掲載)

ごみを捨てない「ノーポイ運動」を提唱した西播地方労働組合会議書記長の
上月 繁幸さん(43)
＝神崎郡香寺町須加院



「か」という批判が、当然のように出てくる。『県や姫路市とは全く関係はありません。もともと、ノーポイ運動の言葉は去年夏ごろから組合内部で言っていた。良いことならば、どこが言ったものでもないんじゃないですか』『本家争い』をいう気はないの

「労働組合は今年で二十一年目。五十二年から出身単組の三菱電機労組姫路支部の委員長を務めるとともに、西播会議の書記長でもある。」

「労働組合はこれまで要求闘争や反対運動には慣れていた。しかし、自らが主体的な運動を展開するのは不慣れです」

「賃上げ闘争だけの、企業内労働でこ足れり、としているのでは、地域社会が労働に与える評価は高まらないのではないでしようか。地域での評価が低ければ、その土地への政治にも影響はもてないのでは」

「ノーポイ運動の成果があられば『船場川にアユが泳ぐようになるような環境問題にも取り組むみたいと個人的に思ってます』。一男一女の父親。子どもの通う中学校のPTA会長も引き受けさせられ、超多忙の毎日。『家では、母子家庭だ、といわれてます』と苦笑した。

地域が望む運動へ取り組み

西播労働会議というおもに中立系の労働組合を中心に組織した労働団体が「ノーポイ運動」に取り組む、という。運動の名称は、県がポトアイランド博覧会のためにいい出したのと同じだ。また、姫路市は主婦の猛反発を受けながらも「ゴミ減量作戦」を推進し始めた。「行政の下請けを西播会議はやる

「県や姫路市とは全く関係はありません。もともと、ノーポイ運動の言葉は去年夏ごろから組合内部で言っていた。良いことならば、どこが言ったものでもないんじゃないですか』『本家争い』をいう気はないの

だとして上月さんは受け流した。なぜ、労組がゴミ問題に？。賃金闘争でベアを獲得できない労組もあるのでは――。

「これからの労働運動は、地域の市民社会が必要とするような運動に取り組まなければいけません」

神崎郡香寺町生まれ。地元の中学を卒業後、養成工として姫路市の三菱電機姫路製作所に勤めながら、姫路工業大学付属高校二部(今の白鷺工業高校)を

でも中小企業の経営者に一定の賃上げをするよう働きかけねばなりません」

会議として

「ノーポイ運動の成果があらば『船場川にアユが泳ぐようになるような環境問題にも取り組むみたいと個人的に思ってます』。一男一女の父親。子どもの通う中学校のPTA会長も引き受けさせられ、超多忙の毎日。『家では、母子家庭だ、といわれてます』と苦笑した。